

「ソフトウェアパターン」 セッション紹介

§ 鷺崎 弘宜 † 細谷 竜一

§ 早稲田大学理工学部

† 東芝ソリューション

<http://patterns-wg.fuka.info.waseda.ac.jp/>

セッション参加者

- < 順不動、敬称略、 : セッションリーダー >
- 細谷竜一(東芝ソリューション)
- 鷺崎弘宜(早稲田大学)
- 久保淳人(早稲田大学)
- 落水浩一郎(北陸先端科学技術大学院大学)
- 河合昭男(オブジェクトデザイン研究所)
- 佃軍治(日立製作所)

- 企業側3名、大学側3名

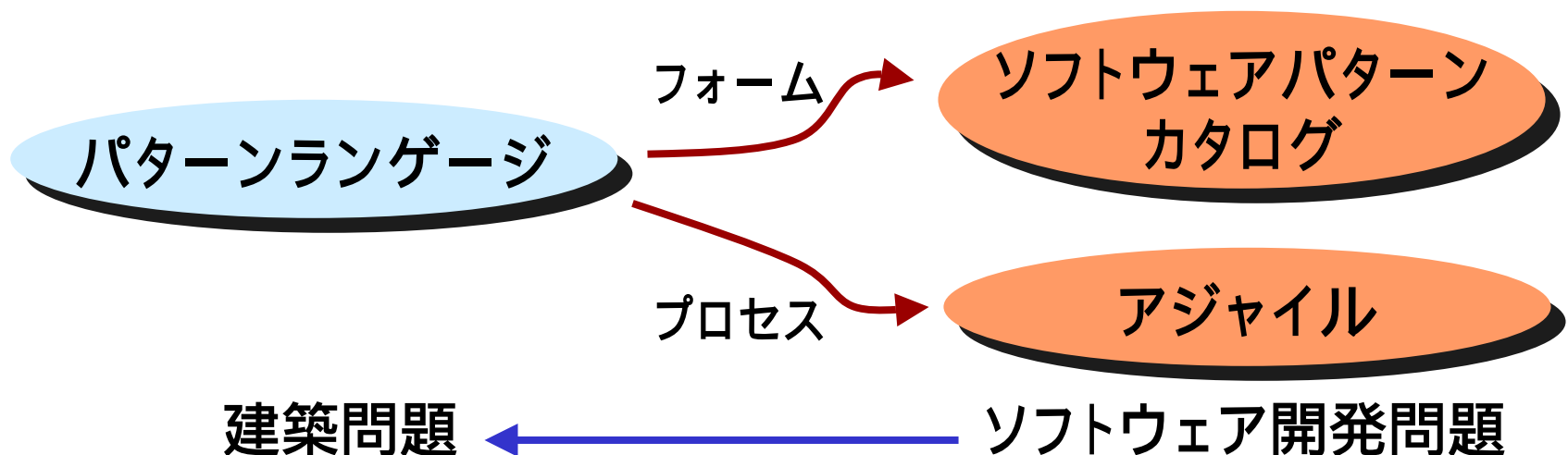


ソフトウェアパターンの歴史と問題意識

- 歴史(国内を中心として)
 - 1977年 Alexander著「A Pattern Language」
 - 1987年 Beck&Cunninghamがパターンランゲージをソフトウェア開発に初めて利用
 - 1993年 BoochによるObjectWorld Tokyoでの講演
 - 1995年 デザインパターン邦訳書出版
 - 1999年 JapanPLoP発足
 - 2003年 IPSJ/SIGSEパターンワーキンググループ発足
- 現状と信念
 - これまでに得られた成果は、関連するパターンを集めた「ソフトウェアパターンカタログ」
 - 系統だって解決策を生成していく「ソフトウェア開発のためのパターンランゲージ」は事実上存在しない
 - 建築においてC. Alexanderのパターンランゲージが扱う問題を、ソフトウェア開発における問題に置き換え可能という信念がある

セッションの目的

- ソフトウェア開発におけるパターンランゲージはいかにあるべきかについて知見を得て、今後役に立てる
 - 「ソフトウェアパターン」
ソフトウェア開発経験における特定の文脈上で、繰り返し発生する出来事から得られる知識
 - 「ソフトウェア開発におけるパターンランゲージ」
関係するソフトウェアパターンの集合に適用の順序を加えたもの
システムだって解決策を生成していく「ソフトウェア開発のためのパターンランゲージ」は事実上存在しない



参加者のポジション

A. パターンランゲージ体験

建築問題

B. 工学的アプローチ

- 鷺崎
- 久保

メタ

ソフトウェア開発における
パターンランゲージとは？

運用

応用

C. 開発プロセス・要求

- 落水
- 河合

D. 組織活動

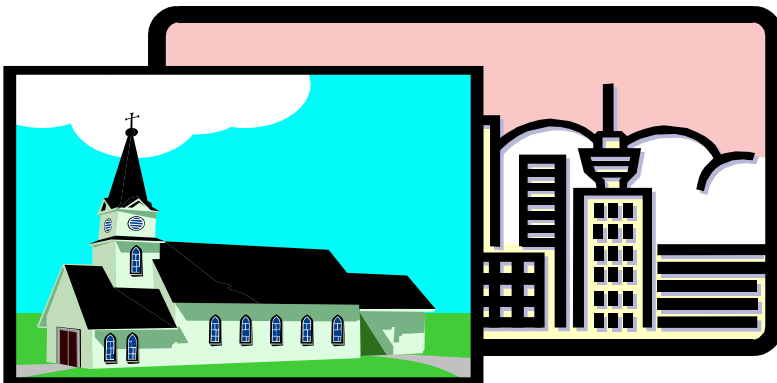
- 細谷
- 佃

A. パターンランゲージ体験と考察

- ソフトウェア開発におけるパターンランゲージを体験し、以降の議論における起点を得る
- (1) 書籍「パタン・ランゲージによる住まいづくり」
- 建築にパターンランゲージが扱う問題を、ソフトウェア開発における問題に置き換え：
対立の解消・経済性の確立・品質向上・要求獲得など

例: ソフトウェアにおける「なつかしさ」「家相」とは？

建築問題



ソフトウェア開発問題



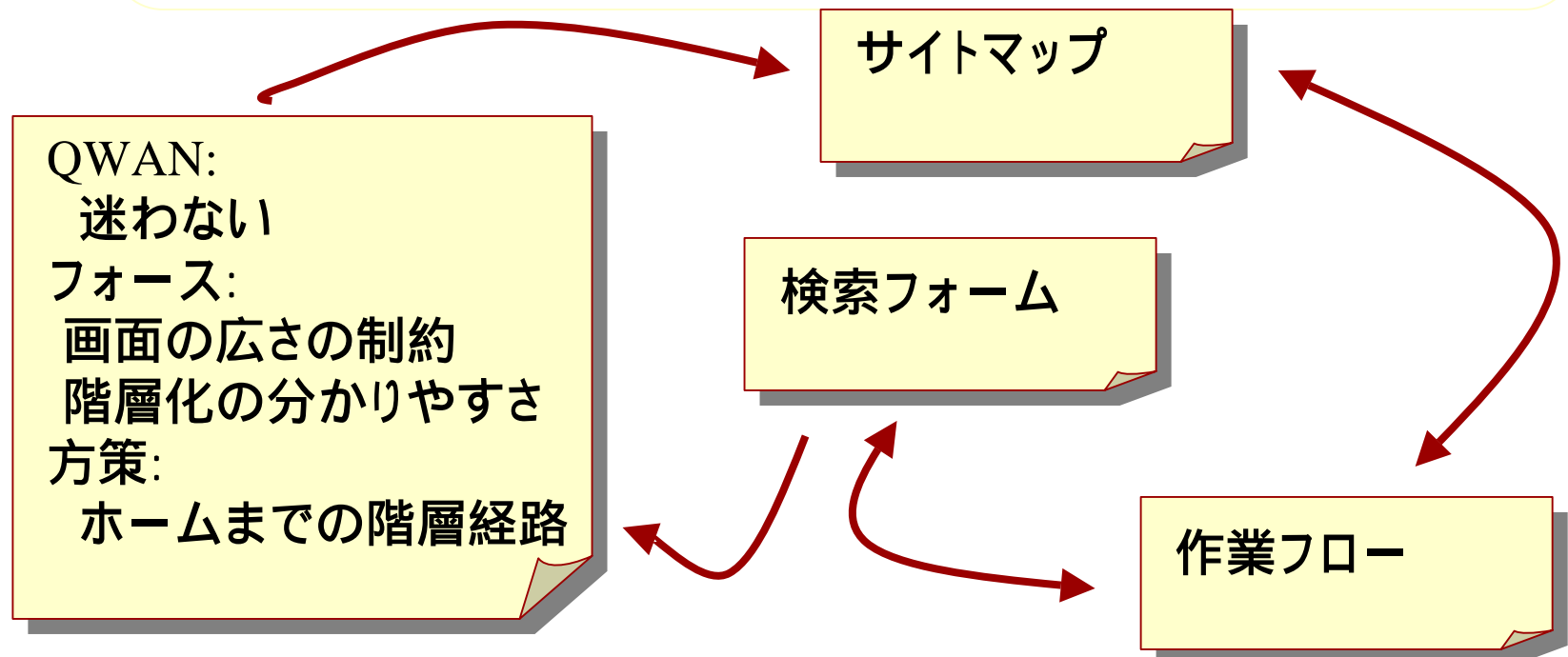
A. パターンランゲージ体験と考察(つづき)

(2) WebシステムのUI設計を題材として、パターンランゲージを編み上げる

- QWAN(名前の無い質)の記述
- フォースの識別
- 方策の記述
- パターンの関連付け

パターン

パターンランゲージ



B. パターンランゲージの工学的アプローチ

- ソフトウェア開発でパターンランゲージが機能する仕組みと効果を工学的に明らかにするにはどうすれば良いか

「ソフトウェアパターンの自動的な体系化の試み」

久保淳人(早稲田大学)

「ソフトウェアパターンランゲージ工学に向けて」

鷲崎弘宜(早稲田大学)

ソフトウェア工学

言語理論

ナレッジマネジメント

都市環境学

認知科学

言語学・記号学

C. ソフトウェア開発プロセスとパターン

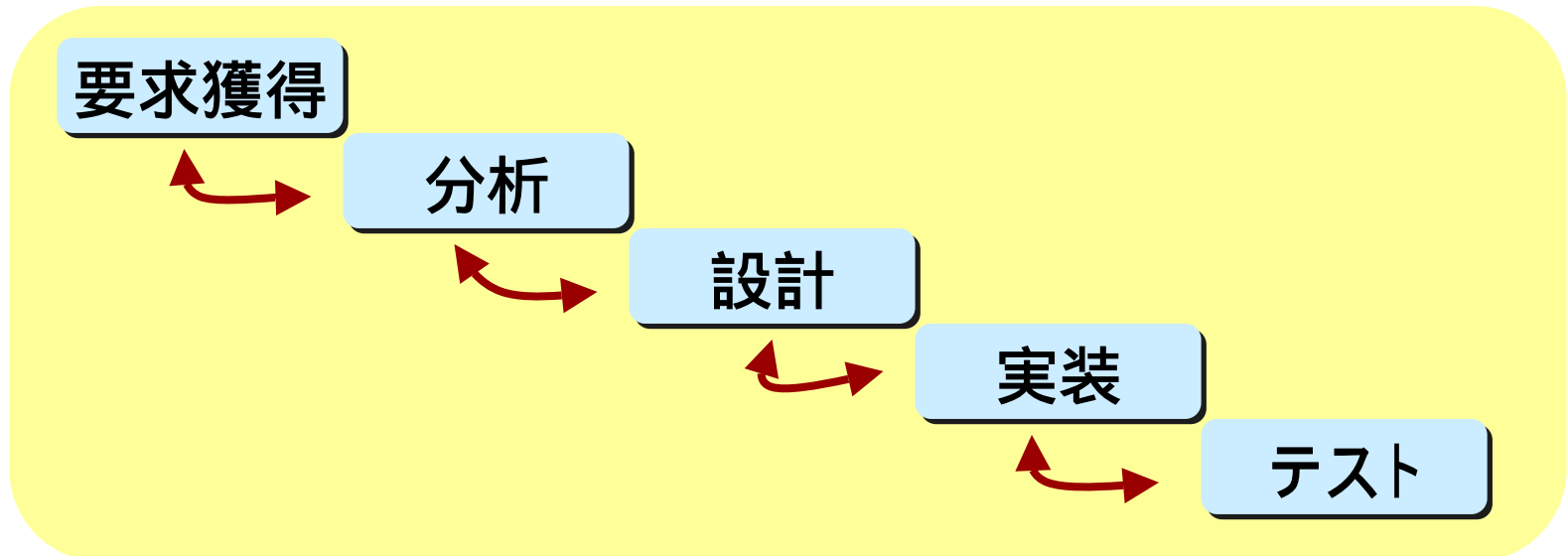
- ソフトウェア開発プロセス(および方法論)の中でどのようにソフトウェアパターンが作用するか、要求定義方法とパターンランゲージはどのように関係するか

「ソフトウェア開発方法論とソフトウェアパターン」

落水浩一郎(北陸先端科学技術大学院大学)

「パターン言語を非機能要件定義に」

河合昭男(オブジェクトデザイン研究所)



D. 組織活動とパターン

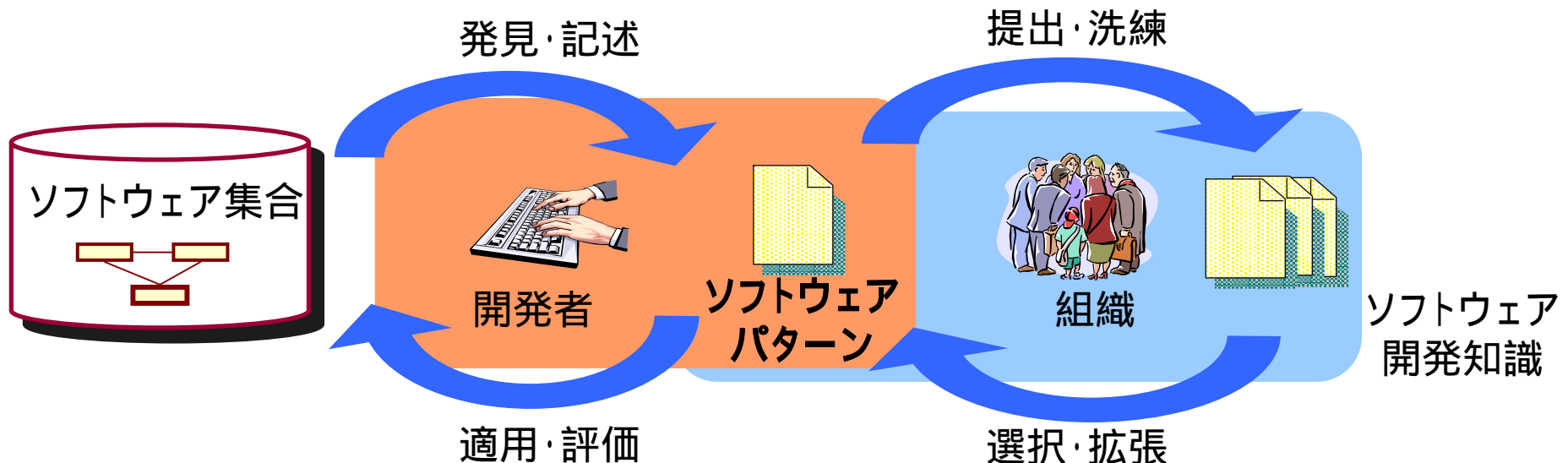
- 組織活動を通じて組織とパターンがどのように相互作用するか、ナレッジマネジメントのプロセスとしてパターン活動を捉えることによってどのような知見が得られるか

「パターン活動とナレッジマネジメント」

佃軍治(日立製作所)

「知識創造装置パターンエンジン」

細谷竜一(東芝ソリューション)



まとめ + 次のアクション

- まとめ作業
 - 全トピック間の関連マップ
 - トピックを通して見られるソフトウェアパターンの課題と展望
 - 「これからは～だ！」的な宣言
- 次のアクション
 - パターンワーキンググループサイトでの成果公開
<http://patterns-wg.fuka.info.waseda.ac.jp/ws2004.html>
 - IPSJ/SIGSEパターンワーキンググループにおける継続的な議論
 - 各参加者個人レベルでの取り組み

